

$\sim 13$   
3269  
5





特  
3269  
5

むくけり之五

○川本黒河が出来

川本八年よりめて黒河八年ワリ。其れたがひふらうざー  
 おるひつのお中うかごひんされども戦場おのぢうか捕ら  
 すり時ぬ人々あむむんをあらひ川本の河事りもあれ黒河  
 よ一里んかされどとらひ黒河ハ本よ少くもうけどとらひ  
 けらん。大坂を治のはたれぬ嘉明の毛男之内の女捕の依一  
 くのぢりらん。その時俄ふ之内の女捕より淀川をさう一



三梅沢  
利治  
書





















のこりあまうと日比大武勇をまげりて大切業あらんとお  
 り大徳軍の先係をつとむり小あまうえおのつこのあつまい  
 少て叶えくすすとこのいふ小智係計略をめぐりて我を  
 浦人をかきい握束を敷きたるもあまうこれをや契券  
 がつひ一火行の細謹を顧むるやいふらんされはれは  
 ついでとて浮沈皆運ふすりといひかぐらまねる人  
 が本勇智係りの依る本兄才小麻かあらんて去れども  
 彼は浮沈の沈あり時運齊しわがど令途行とあ  
 くとさぐいよぞろふ涙をながしとあつこのまのつくとねへ  
 ころ色あり次第左あつあやしとておのく暗の夜候こ  
 せうろつねるさりし首波河のりあむすあらんて



こゝにぬゑん志をくく地をくくつらりしがやありて川木

一首此詩を詠す

淀水城遠坐古磯

生存零落皆如此

江山猶是昔人非

惟恨平生志未違

黒河はくわいし吟

兵火年々新虜塵

高名豪富今何在

英雄一掃殘劫新

還對故人倍傷神

かくて来いしく文すざりれども治所は其の小いざ瘡のひそ  
旅のつれをとも休めぬ人程積る事ハめりしれゆりのめり  
てぬ人もこが伏座しへりれども次郎は其のも傍ふ入り  
射を極めしへるさるるも東あけ月さありれども

死あがりあたりをわりのあたげ茶にこころ野原ありとこの

ぬ人もえんほどとどろり屋敷の家存の跡をなすよりの

見めぐすれどもあつりふすう土をかきあげてあり

りしき幸が安立ありびれうさ蓬草むしおひきげり

またと問人もなきていと死ぬ治所は其の小いざ瘡

いれぎ波の里くあつりふすうとあつてこそ其武勇を所

りひまふ溺き死しとらふ死るるいとあつれおかし

くかきひて墓ふあつて念はし吊ひりれりしとあつ

本國おゆり川木黒川が流歸おつりぬぬ人の跡を

はねるふりのぬ人が子二人ありしが加藤多助が捕虜

石州吉永とのつら入逼塞しゆひしと人ぬら子



宰人〜〜流浪〜〜を。次郎を忠つ〜〜ごみさひかりく  
の事あり〜〜と仰り。大切あり〜〜討死せし〜〜人の子なるの  
すてゑぐ〜〜とて香角如抱〜〜流小〜〜人〜〜  
みねの京者へを云〜〜おのの子孫程を〜〜おのりま  
ありぬ〜〜

○山伏の再生

右長秀吉云尾州名藩をよみ〜〜ます此藩尾一角といふ  
案ありなり。永〜〜流浪〜〜別上お〜〜入〜〜あて〜〜  
りりるす〜〜此お流あり〜〜秀吉云小目人をを〜〜  
〜〜時帝を衣裳刀指〜〜かひり〜〜あり〜〜  
〜〜後秀吉云一角をを〜〜出伏人の体〜〜  
〜〜すか〜〜伏人〜〜家の老〜〜書状  
〜〜い〜〜角神状〜〜師茶を〜〜  
〜〜伏人へのかりりり。おれ〜〜身〜〜人〜〜地りか  
〜〜海濱の用念〜〜が〜〜れ〜〜伏人〜〜い〜〜







歌子をまうけまぬらうらうら争うざりなり。け子三千は  
 争うして父一角つごまあげて見れどかの珍麻のら中  
 きりこらして控てら山伏のうらうらま無たり。あーぎま  
 おり内年月多ままごぐいあくめの山伏は無たり。父家  
 味あーくごいづのめく子のぞくと愛せむのまずいぶん  
 子孝のりをいこーまあやうは片くられた。父んようすは  
 すりりあてあくあくこまいひく。どの子のすりれの事氣  
 おいずとてあうりのめーくまらる。母あやーとていづあ  
 親ありとてかおどまごて孝のちり子をつめーく何  
 こりぬふーとてころつねとうらりれども。一角はもにくこ  
 りれどられゆへもこま婦らさうらやむ時さー。どのますてよ

ぬんーとて三千らうらうらぬれだ。あーまがこたもなこ  
 山伏のすこちり。一角さくらの山伏は子よ生れうらて  
 事ねありとおれろーとてすまあくもまらうらあ時  
 一角のまよらあ。かの方親よの孫は口ざりまやまら  
 ま叶とびれまらまこぬお孫も利家よハ母方のをまね  
 ありなまご一先これがけりあくまらうらまらべーとて。今も  
 松とちた大の孫指まて涙へうらうらまらりりめよふ  
 ころねも是れよぬんまらまら母方のまらまら  
 子てこま年とて兵りうらうらーらん又た婦も海りら  
 ことらうらて親のらまらむまらあうらまらあうら  
 あり。向後ワがまらまらへうらまらまらまらまらまら

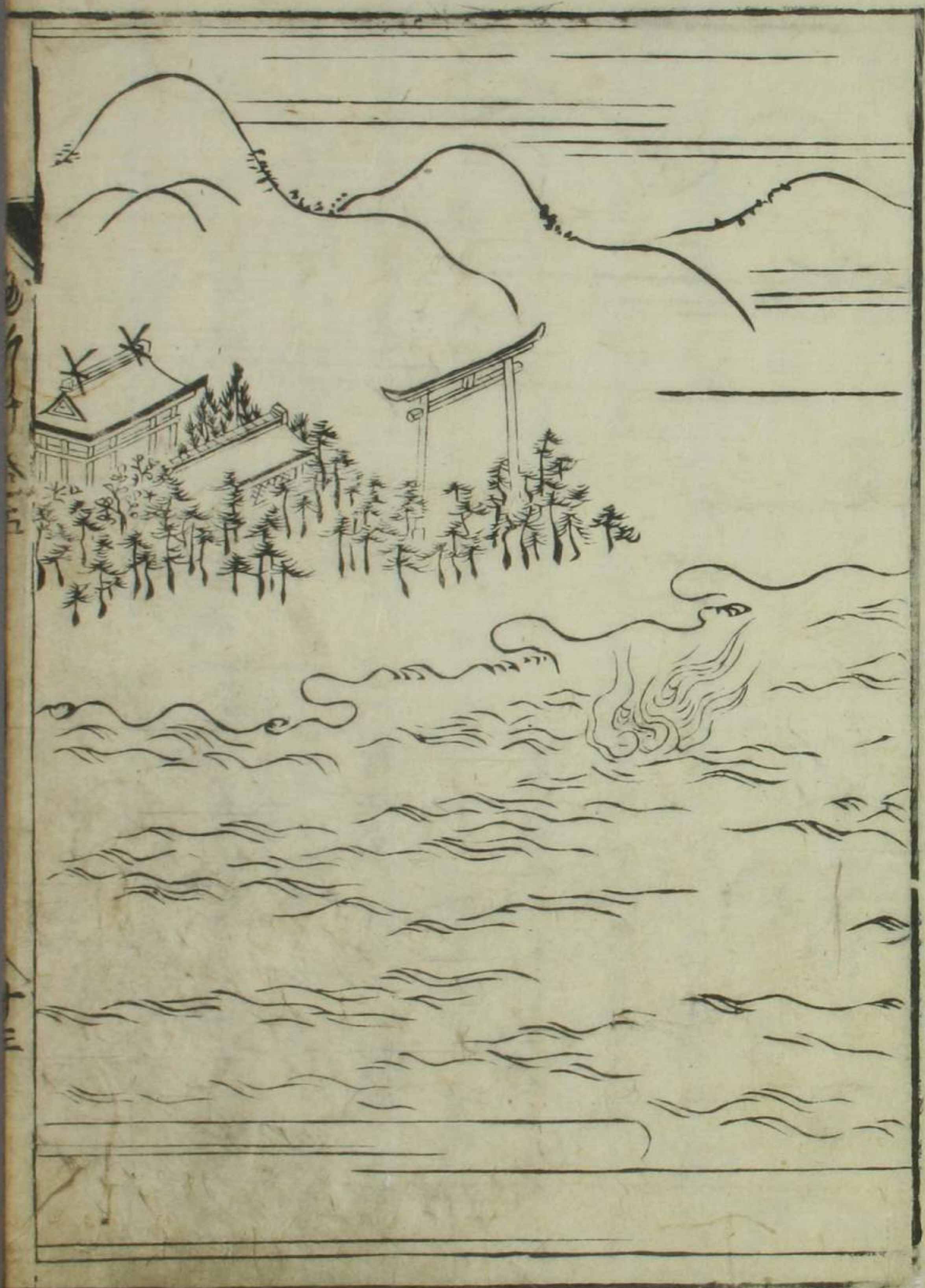


















あつてくえんもふ希は後現は清いりありて御殿歌あり  
日れしれい新海守よ伴し海北

あつてくえんもふ希は後現は清いりありて御殿歌あり

かつて来入忽ち火現ドクられど

深なるべ藤原焼ややあひるべ

何ぞくく火のりりありし

御舟はくふく保の浦もあつて希殿五穂ありて

思ひやれ身身現と保も浦風より

あつてくえんもふ希は後現は清いりありて御殿歌あり

後は後現よあつて希殿五穂ありて御殿歌あり

をまじりしと号し一のふさればいりへよりしとあつて希

瑞あけくくあつて希殿五穂ありて御殿歌あり

すくひ風波をまじりしとあつて希殿五穂ありて御殿歌あり

地は新神なるべ一とあつて希殿五穂ありて御殿歌あり

新神のまじりしとあつて希殿五穂ありて御殿歌あり

一室は神の冥体とあつて希殿五穂ありて御殿歌あり

あつてくえんもふ希は後現は清いりありて御殿歌あり

さつて来入忽ち火現ドクられど

く皆ひよあつて希殿五穂ありて御殿歌あり

ては大樹もあつて希殿五穂ありて御殿歌あり

まじりあやしりれこの後あつて希殿五穂ありて御殿歌あり



















